

かけはし

会報 87 号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:井上 育世
 事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 パロール代々木 415
 TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/



平成 30 年 6 月の大阪府北部地震、7 月の西日本豪雨、そして、9 月の台風第 21 号および北海道胆振東部地震により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。1 日も早く日常生活に戻れますようお祈りいたします。

疑似体験プログラムで思うこと NPO法人全国LD親の会 理事長 井上 育世

あちらこちらの発達障害の講演会で、疑似体験ができる機会が多くなりました。種類も豊富で、次から次へと畳み掛けるように出てきます。そんな疑似体験プログラムでいつも思い知らされるのは、私自身のモチベーションの低さです。「木は何本ありますか?」という課題が示された途端、「きっと何か邪魔をするに違いない」と思い、画面が出たら、「数えてもどうせ時間切れになるし・・・」と思ってしまふ。「漢字を写しなさい」と、やたら画数の多い漢字が出てくると、字を眺めているだけで、写そうという気もおこらない。参加者の皆さんはとて真面目で、「ええっ!?!」と言いつつも、一生懸命作業に取り組んでいます。やる気のない自分自身を感じながら、深まる孤立感。更に追い打ちを掛けるように、講師からの「隣の人と相談してみましよう」という言葉。「話せと言われても・・・」と思いつつ、「難しいねえ」などと、前向きとは言い難い感想を述べてみる。

でも、私は決して疑似体験プログラムが嫌いなわけではありません。何といても「疑似体験」なので、「取り組みたくない自分」を評価される本当の現場ではないし、改めて息子への言葉掛けを反省し、リセットする機会にもなるからです。

出勤前の慌ただしい朝、思考停止している息子に「何をボーっとしてんの?」ではなく、「今日も暑そうだねエ」と声掛けすれば、「そうだ。タオルの用意だ。」と、優先順位の高い作業に取り掛かり始めます。そんな工夫のあれこれを、実生活の中の PDCA サイクルとして回していけるのは、親の会の活動から得るところが大きいのではないかと考えています。

今年の 2 月、全国 LD 親の会は、設立 28 年を迎えました。そして、NPO 法人となってから 11 回目の総会を、愛知県の名古屋で無事終了することができました。愛知県の親の会「かたつむり」は 1982 年設立という老舗中の老舗で、35 年間という長い間活動されてきた名古屋で総会開催できたことを、本当に嬉しく思っています。全国 LD 親の会の会員数は毎年減少してきており、今年度は 43 団体 2,637 名になりました。会の活動は確かに面倒なことも多いけれど、だからこそ実際の生活の中の体験として得られることがたくさんあります。そんな仲間と共に、今年度もできることを続けていこうと思っています。よろしくお祈りいたします。

特定非営利活動法人全国LD親の会役員

理事長 : 井上育世
 副理事長 : 多久島睦美
 理事 : 梅野真澄、東條裕志、水越由起恵
 評議員 : 栗野健一、石原葉子、小川るみ子、
 齊藤里依、永井弘明、松井洋子、山口晶子

特定非営利活動法人全国 LD 親の会 第 11 回総会報告

日時:平成 30 年 6 月 23 日(土) 13:00-14:15

場所:愛知県産業労働センター ウィンクあいち 小ホール 2

総数 43 加盟団体中、代表者出席 26 団体、委任状提出 16 団体の計 42 団体の参加の中、第 1 号議案～第 4 号議案のすべての議案が満場一致をもって異議なく承認されました。

【審議事項】 第 1 号議案 平成 29 年度事業報告(案)承認の件
 第 2 号議案 平成 29 年度収支決算報告(案)承認の件
 第 3 号議案 定款の一部改訂(案)
 第 4 号議案 平成 30 年度役員選任(案)の件

研修会報告

日時:2018年6月23日(土)14:30~16:30

会場:愛知県産業労働センターウイंकあいち 小ホール

テーマ:「親亡き後の課題ー自立の課題」

講師:鈴木美登里氏(社会福祉士)

例年を上回る95名もの方にご参加いただき、『親亡き後』への不安・関心の高さを改めて感じました。

講師の鈴木さんは自立相談支援員・NPO法人オレンジの会理事として、長年にわたり、ひきこもりや生活困窮者の相談・支援に精力的にあたられています。自立や親亡き後への備えなどについて、さまざまな具体的な事例を交え、お話いただきました。

講演の中で「子が自立するために、親が子どもから自立することが優先される」「親を卒業する」というお話があり、親子関係・家族関係について考えさせられました。自立のための環境整備(恵まれた環境においては環境を変えるのは難しい。守られた中では本人が工夫しない。本人が自覚し、自分で考えることが大切であること)や、親が亡くなった後の家やマンションの管理、お葬式のことまで多岐にわたり、分かりやすくお話いただきました。

鈴木さんが立ち上げられた「OSD よりそいネットワーク」は関東で活動されており、『家族信託』の制度についても説明していただきました。親亡き後を漠然と不安がるだけでなく、何を準備すべきか、多くのヒントをいただきました。



<研修会アンケートより>

- ・ 親の自立について考えさせられた。子の自立の前に親の自立が大切だと痛いほど感じました。
- ・ 親子の関係で障害のある子どもと離れるのは、勇気のいる事だと思いました。
- ・ 身につまされる内容でとても参考になりました。保護者の意識をいかに変えていくかが問題解決につながって行くのだと実感させられました。

青年の交流会報告

日時:2018年6月23日(土)12:00~19:00

テーマ:名古屋城・栄テレビ塔周辺散策

プログラム:14:00~16:30 名古屋城・テレビ塔周辺散

17:00~19:00 懇親会

参加者:青年交流会21名、懇親会19名、スタッフ4名

今年は初めて名古屋で開催しました。ウイंकあいちにて交流した後、地下鉄で名古屋城へ移動しました。当日は、あいにくの土砂降りでした。ガイドボランティアさんの案内で、絢爛豪華な名古屋城本丸御殿を見学しました。その後、栄に移動し、『オアシス21』『テレビ塔』周辺をグループで散策しました。(途中、迷子になったり、切符を失くしたり、パブニングもありましたが大きなトラブルもなく、楽しい時間を過ごすことができました。)

懇親会は、名古屋駅Rセントラルタワーズにある「農場レストラン モクモク」でバイキングを楽しみました。

<青年の感想>

- ・ いろんな場所で開催してほしいです。いろんな有名な観光スポットを見てみたいです。今日は初めて名古屋に来たけど、非常に楽しかったです。
- ・ 今日はあいにく雨で、外歩きが面倒でした。雨の日は室内で過ごすなど代案があればいいなと思いました。

懇親会報告

総会終了後、会場近くの居酒屋「奥志摩」にて懇親会を開催しました。北海道から九州まで全国各地より60名の方に参加いただきました。(想定を上回る申込みをいただき、辞退をお願いしたほどでした。研修会同様、多くの方に参加いただき、ありがとうございました。)

研修会講師の鈴木さん、特別支援教育ネット代表 小栗先生ご夫妻もご参加下さり、各地の仲間と交流を深めることができました。皆熱く語り合い、会場は熱気に包まれていました。

およそ20年ぶりの名古屋での総会開催となり、東海・北陸ブロックの皆様には大変お世話になり、誠にありがとうございました。参加された皆さんから「遠方の総会・公開フォーラムはなかなか参加しにくいですが、地元開催で参加しやすかった。」「初めて全国LD親の会の総会・公開フォーラムに参加して、とても刺激を受けた。」との声をいただきました。

(多久島)



**第17回 全国LD親の会公開フォーラム
「発達障害者の青年期の現状と課題
～教育から就労への移行支援～」**

日時:2018年6月24日(日)10:00～16:30
会場:愛知県産業労働センター ウィングあいち 5階
小ホール2
参加人数:224名(一般100名、親の会109名他)

特別支援教育開始後に、小・中学校生活を過ごした子ども達も就労する年齢を迎え、発達障害のある人の青年期の課題・就労および就労定着の具体的な状況・職場における実際例などから、一人ひとりのライフステージに応じた支援について考えあう機会としました。

**【基調講演】「発達障害のある人への支援を繋ぐ
～豊かな学びと生活と就労に向けて～」**

柘植 雅義氏(筑波大学 人間系 障害科学域 知的・発達・行動障害学分野教授、日本LD学会理事長)

教育・医療・福祉の支援はリレーランナーのように次の人にきちんとつないでいかなければならない、2016年の改正発達障害者支援法でも「切れ目のない支援」が強調され、つなぐことの重要性が明記されるなど「支援をつなぐ」ということを様々な面から分かりやすく講演いただきました。「本人・保護者・支援者・行政・専門家などが連携して着実に推進していくこと(アクションを起こしていく)」「期待して待っていても何も起こらない」というお話に改めて親の会の役割と今後の方向性を確認しました。

**【報告】「教育から就業への移行の現状と課題
～会員調査から報告～」**

東條 裕志氏(NPO 法人全国LD親の会)

昨年10月「教育から就業への移行実態調査報告書Ⅳ」を発行しました。18歳以上の子どもを持つ会員とその子どもを対象に調査し、発達障害者支援法施行前と施行後の比較、年齢層や診断名での比較など発達障害のある人が置かれている環境が報告されました。

【行政解説】「特別支援教育行政の現状と課題」

中村 信一氏(文部科学省 初等中等教育局
特別支援教育課 課長)

『家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト』では、例えば学校と放課後等デイサービス事業所で活動内容が共有されていないため、今後文部科学省・厚生労働省が連携して取り組んでいくこと、「デジタル教科書」を使用できるように学校教育法の一部が改正(平成31年4月施行)されたこと、高校の新学習指導要領ではキャリア教育を充実することなどを解説していただきました。

【行政解説】「発達障害のある方に対する就労支援施策」

田中 歩氏(厚生労働省 職業安定局 雇用開発部
障害者雇用対策課 地域就労支援室 室長)

障害者雇用率(民間)が2.2%となり、障害者雇用の対象に精神障害者が加わったことから、ハローワークに「発達障害者雇用トータルサポーター」が配置されたこと、期間限定のトライアル雇用助成金を利用し常用雇用を目指す仕組みがあること、企業在籍型ジョブコーチを配置する企業が増えていることなどを解説していただきました。

【パネルディスカッション】「教育から就労への移行支援」

司会 多久島 睦美(NPO 法人全国LD親の会)

パネリスト 野澤 紀子氏(愛知障害者職業センター
豊橋支所 支所長)

山崎 尚樹氏(NPO 法人障がい者自立支援
センターなごや就労支援事業
所「マーム」所長)

森田 三由樹氏(名古屋大学 総務部人事課
業務支援室 副室長)

村上 佳恵氏(フジパングループ本社株式
会社 人事部係長)

岡本 冨可氏(フジパングループ本社株式
会社 人事部)



パネリストの方々に、それぞれの取り組みについてお話していただいた後、質問にお答えいただきました。

Q:進路選択について

A:一つの選択肢として、学校在籍中から就労支援事業所が使える(市町村で違う)ようになったので、利用すると卒業後4月から就職できる。また、就労支援事業所に籍を置きながらトライアル雇用に就き、向いていないと判断したら就労支援事業所へ戻るという選択肢もある。

Q:働き続けるために必要な事は?

A:失敗した時に、「ここがよくなかったね」だけでなく「もっとこうしたらよくなるよ」というフィードバック、方法までアドバイスする関りによって、本人が経験しながら理解していくこと。また体調管理、体力や精神面の安定に加え、「お金を得る」という意識、さらに「何のために働いているのか」本人が答えを持っていることが必要。「今後こんなことをやってみよう」といった成長意欲も重要になる。(水越)

全国会員の子どもの構成調査

(正会員 43 団体の集計)

<総括表>

区分	人 数					男女比	
	男	女	合計	区分比率	前年比	男	女
未就学	26	9	35	1.3%	-18.6%	74.3%	25.7%
小学校	330	67	397	15.2%	-7.5%	83.1%	16.9%
中学校	269	51	320	12.3%	-22.0%	84.1%	15.9%
高校相当	335	87	422	16.2%	-2.8%	79.4%	20.6%
高卒相当	1,129	305	1,434	55.0%	+5.7%	78.7%	21.3%
合計	2,089	519	2,608	100.0%	-2.4%	80.1%	19.9%

<小学校>

区分	男	女	計
小1	23	12	35
小2	38	7	45
小3	42	11	53
小4	67	12	79
小5	88	13	101
小6	69	12	81
計	330	67	397

※合計と個別データは合っていない

<中学校>

区分	男	女	計
中1	72	18	90
中2	86	14	100
中3	111	19	130
その他	0	0	0
計	269	51	320

<高校卒業相当以上>

区分	男	女	計
大学・短大	148	31	179
高等専門学校4年～	4	0	4
特別支援学校専攻科	3	1	4
専門学校	42	14	56
就労(一般)(週20h以上)	188	32	220
就労(障害枠)(週20h以上)	321	77	398
就労(一般)(週20h未満)	21	11	32
就労(障害枠)(週20h未満)	24	8	32
職業訓練校・委託訓練	11	2	13
就労移行支援	74	18	92
就労継続支援 A型	43	13	56
就労継続支援 B型	82	28	110
地域活動支援センター	16	7	23
その他(自由業者・内職等)	22	7	29
無職(失業中・主婦等)	84	38	122
不明(記入無し)	46	18	64
高校卒業相当計	1,129	305	1,434

<高校相当>

区分	男	女	計
高1(高専1年)	80	26	106
高2(高専2年)	107	28	135
高3(高専3年)	103	25	128
単位制高校	22	3	25
その他	19	4	23
就労・在宅等	4	1	5
高校相当計	335	87	422

<小学校>

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	110	27.7%	-19.1%
普通級(通級利用有り)	75	18.9%	-12.8%
特別支援学級	177	44.6%	-2.2%
特別支援学校	14	3.5%	+75.0%
その他・不明	21	5.3%	+16.7%
計	397	100.0%	-7.5%

<中学校>

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	148	46.3%	-23.7%
普通級(通級利用有り)	45	14.1%	-8.2%
特別支援学級	87	27.2%	-22.3%
特別支援学校	14	4.4%	-12.5%
フリースクール等	4	1.3%	+100.0%
その他	2	0.6%	0.0%
不明	20	6.3%	-42.9%
計	320	100.0%	-22.0%

< 高校生の状況 >

	単位制以外						単位制高校						人数計	人数比率
	国・公立			私立			国・公立			私立				
	全日 制	定時 制	通信 制	全日 制	定時 制	通信 制	全日 制	定時 制	通信 制	全日 制	定時 制	通信 制		
普通科	56	18	3	90	0	39	7	6	6	11	3	17	256	60.7%
専門学科 (商業・工業・農業等)	27	3	0	8	0	1	0	0	0	1	0	1	41	9.7%
総合学科	1	0	0	4	0	1	3	0	0	0	0	0	9	2.1%
高等専門学校 (1～3年)	3			1									4	0.9%
高等特別支援学校・ 特別支援学校高等部	69	2	0	1	0	0							72	17.1%
高等専修学校	0	0	0	12	0	0							12	2.8%
専門学校	0	0	0	0	0	0							0	0.0%
フリースクール													1	0.2%
その他													8	1.9%
不明													19	4.5%
計	156	23	3	116	0	41	10	6	6	12	3	18	422	100.0%

	人数	比率
国・公立	204	51.8%
私立	190	48.2%

	人数	比率
単位制以外	339	86.0%
単位制	55	14.0%

	人数	比率
全日制	294	74.6%
定時制	32	8.1%
通信制	68	17.3%

一般社団法人 日本LD学会第27回大会

日時:2018年11月23日(金)～25日(日)
 場所:新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ
 (新潟市中央区万代島6-1、新潟駅からバスで約15分)
 大会テーマ:「発達障害のある子どもたちの
 インクルーシブ教育の構築」
 ー特別支援教育の10年の成果とこれからを考えるー
 大会長: 国立大学法人 上越教育大学 加藤 哲文

司会: 多久島 睦美(NPO法人 全国LD親の会)
 話題提供: 東條 裕志(NPO法人 全国LD親の会)
 話題提供: 石和田 弘(新潟県立 長岡明德高等学校)
 話題提供: 岸田 耕二(社会福祉法人 すいせい)
 指定討論: 丹羽 登(関西学院大学 教育学部)

大会ホームページからの事前参加申し込みは9月末に終了します。期限に間に合わない場合は、当日、会場の「親の会受付」で手続き後、ご参加下さい。

●親の会ポスター展示
 毎回、多くの方が親の会ポスター展示を見に来てくださいます。大会に参加された先生方は、地元の親の会の活動に関心を持たれています。多くの方に親の会の活動の内容を知っていただく機会にもなっています。

●全国LD親の会企画シンポジウム
 テーマ:「発達障害のある高校生の実態調査から見た現状と課題～自立と社会参加に向けて～」

●親の会 懇親会
 日時:11月23日(金・祝)18:30～(予定)
 会場:地鶏×鮮魚 個室居酒屋「もみじ苑」新潟駅店
 (ポスター展示と懇親会については、各会に別途連絡済みです)

★★★ LD等の発達障害のある高校生実態調査Ⅲ 会員アンケートのお礼 ★★★

今年度6月にお願した「LD等の発達障害のある高校生実態調査Ⅲ」のアンケートでは、7月末締め切りという短い期間にもかかわらず、多数ご協力いただき、ありがとうございました。今回は高校卒業生(卒業後4年程度)の皆様にもご協力いただき、378通のご回答をいただきました。数値部分の集計結果につきましては、早速、今年11月の日本LD学会大会での親の会企画シンポジウムにてご報告させていただきます。そして、来年度には行政等への説明資料として使えるように、詳しく分析した結果を冊子としてまとめたいと思っています。

特別支援教育支援員養成事業

ボランティア支援員養成講座 in 滋賀

今年度、滋賀で初めてボランティア支援員養成講座を開催しました。2日間のコースですが、長年にわたり、トムソーヤの活動を支えてくださった先生方が講師を務めてくださり、大変充実した内容でした。申込者44名が全員参加・当日キャンセル無しという意識の高い滋賀の皆さんと有意義な学びをすることができました。

- ◆日時:2018年8月4日(土)・5日(日)
- ◆会場:RiseVille 都賀山 会議室アゼリア
- ◆共催:滋賀LD親の会「トムソーヤ」
- ◆後援:滋賀県教育委員会、守山市教育委員会、草津市教育委員会、近江八幡市教育委員会
- ◆コース:ボランティア支援員コース
講習:2日間(9科目/12.5時間)
学校等で有償・無償のボランティアとして、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある子ども達の支援、保護者等に対する相談支援が行える者の養成
- ◆プログラム:

第1日:8月4日(土) 9:15~17:40

	科目
	オリエンテーション
1	ボランティア支援員としての業務や心構え 北脇三知也氏(滋賀LD研究会顧問)
2	特別支援教育概論 藤井茂樹氏(びわこ学院大学教育福祉学部教授)
3	学校・学級での支援の仕方、担任と連携の仕方 西谷淳氏(甲賀市立甲南中部小学校教頭)
4	子どもへの対応の基本 小西喜朗氏(甲賀市教育委員会巡回指導員)
5	発達障害の特性と理解 宇野正章氏(パームこどもクリニック院長)

第2日:8月5日(日) 9:20~16:00

6	保護者への対応 井上育世(NPO法人全国LD親の会)
7	障害のある子どもの心理 小西喜朗氏(前出)
8	子どもの特性と対応方法(1) 社会性・コミュニケーション・行動面の困難とサポート方法 藤井茂樹氏(前出)
9	子どもの特性と対応方法(2) 自立生活面・学校生活面での困難とサポート方法 西谷淳氏(前出)

- ◆講師:
特別支援教育士SVを中心とした有資格者5名
- ◆受講者:44名(修了43名)
- ◆受講者の属性
・親の会会員8名(トムソーヤ)
・一般36名(教員・支援員・保育士・幼稚園教諭・大学職員・放課後等ディサービス職員・就労移行支援員・看護師・介護職・保護者等)



特別支援教育支援員養成講座 in 大阪

今年度も下記日程で特別支援教育支援員養成講座を開催しています。

- ◆日程:2018年8月25日(土)~10月21日(日)
- ◆会場:大阪府立男女共同参画・青少年センター
大阪府立労働センター
- ◆コース:
(1)支援員コース[講習:6日間(20科目/28.5時間)]
特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭等の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、保護者等に対する相談支援が行える者の養成
第1日目:8月25日(土) 第2日目:8月26日(日)
第3日目:9月8日(土) 第4日目:9月15日(土)
第5日目:10月20日(土) 第6日目:10月21日(日)
- (2)学習支援員コース[講習:8日間(26科目/39.5時間)]
特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭等の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する学習支援、介助、保護者等に対する相談支援が行える者の養成
第1日目:8月25日(土) 第2日目:8月26日(日)
第3日目:9月8日(土) 第4日目:9月15日(土)
第5日目:9月17日(月・祝) 第6日目:10月14日(日)
第7日目:10月20日(土) 第8日目:10月21日(日)

◆講師:特別支援教育士SV中心の有資格者15名

◆プログラム・日程

2018年8月25日(土) 10:20~15:30

(支援員コース・学習支援員コース共通)

	オリエンテーション
1	特別支援教育概論 竹田契一氏(大阪教育大学名誉教授)
2	特別支援教育支援員としての業務 大谷和夫氏(子育てサポートIdeCAT)
3	特別支援教育支援員としての倫理・心構え 大谷和夫(子育てサポートIdeCAT)

2018年8月26日(日)9:30~16:40

(支援員コース・学習支援員コース共通)

4	知的、身体、視覚、聴覚障害の特性の理解 花熊暁氏(関西国際大学教育学部教育福祉学科教授)
5	LD、ADHD、自閉症、高機能広汎性発達障害 花熊暁氏(前出)
6	子どもへの対応の基本 筈廣みさき氏(一般社団法人発達支援ルームまなび理事)
7	障害のある子どもの心理 筈廣みさき氏(前出)

2018年9月8日(土)9:00~12:00

(支援員コース・学習支援員コース共通)

8	学校・学級での支援の仕方・担任との連携の仕方 小田浩伸氏(大阪大谷大学教育学部教授)
9	介護・介助の基礎、移動介助 小田浩伸氏(前出)

2018年9月15日(土)9:30~16:40

(支援員コース・学習支援員コース共通)

10	視覚障害 松下幹夫氏(元大阪府立視覚支援学校指導教諭 歩行訓練士)
11	聴覚障害 森田雅子氏(大阪市教育委員会指導部インクルー シブ教育推進担当アドバイザー室言語聴覚士)
12	ペアレント・トレーニングの視点(1) 米田和子氏(NPO法人ラヴィータ研究所理事長)
13	ペアレント・トレーニングの視点(1) 米田和子氏(前出)

2018年9月17日(月・祝)9:30~16:10

(学習支援員コースのみ)

14	読み書きの困難とサポート方法 村井敏宏氏(学校法人丹青学園発達・教育支援セ ンター フラールL.C.所長)
15	言葉(聞く、話す)の困難とサポート方法 村井敏宏氏(前出)
16	教材・教具の利用方法 ワーク 山田充氏(広島県廿日市市教育委員会特別支援 教育アドバイザー)

2018年10月14日(日)9:30~16:10

(学習支援員コースのみ)

17	算数の困難とサポート方法 ワーク 栗本奈緒子氏(大阪医科大学LDセンター言語聴 覚士)
18	子ども達に接するときのポイント 西岡有香氏(大阪医科大学LDセンター言語聴覚 士)
19	ロールプレイング、グループ討議 西岡有香氏(前出)

2018年10月20日(土)9:30~16:10

(支援員コース・学習支援員コース共通)

20	特別支援教育コーディネーターからのレクチャー 今村佐智子氏(一般社団法人発達支援ルームまな び理事、桃山学院教育大学学生支援センターカ ウンセラー)
21	現役支援員からのレクチャー・ワーク
22	自立生活面の困難とサポート方法 松久眞実氏(桃山学院教育大学教育学部教授)
23	学校生活面での困難とサポート方法 松久眞実氏(前出)

2018年10月21日(日)9:30~14:45

(支援員コース・学習支援員コース共通)

24	社会性・コミュニケーション・行動面の困難とサポート方法 伊丹昌一氏(梅花女子大学心理こども学部心理学 科教授)
25	行動面の困難とサポート方法・グループ討議 伊丹昌一氏(前出)
26	保護者への対応 井上育世(NPO法人全国LD親の会)
-	修了式

各地域での講座開催を目標として始まった支援員養成講座ですので、毎年少しずつ増やしていければと思っています。(井上)

平成31年度予算要望書を提出

平成31年度予算編成について5月15日付で要望書を文部科学大臣・厚生労働大臣あてに提出しました。

平成31年度 文部科学省関係予算要望事項

<重点要望事項>

1. 特別支援教育に関わる教員を増員すること
2. 合理的配慮を的確に行うための校内支援体制を整備し、推進すること
3. 専任の特別支援教育コーディネーター配置を拡充すること
4. 学習上の支援機器等教材の活用促進
5. 高等学校における通級指導教室の設置と機能の促進を図ること
6. 生涯学習への支援の充実

<その他の要望事項>

1. 合理的配慮を確保しつつ、インクルーシブ教育システムの充実の推進を図ること
2. 特別支援教育に関わる教員の専門性向上を図ること
3. 発達障害のある児童・生徒に対する個別の教育支援計画の作成・活用・引継ぎを義務付けすること
4. LD、ADHDを対象とした通級教室の拡充
5. 早期からの教育相談・支援体制を整備すること
6. 後期中等教育における発達障害のある生徒に対する支援体制を強化すること
7. 大学等の高等教育における発達障害のある学生に対する支援体制を整備すること
8. 学校外の人材・資源・資格等の活用を推進すること
9. 発達障害の特性に応じた災害時の支援対策を整備・周知すること

<中長期的な要望>

1. 特別支援教室構想について、インクルーシブ教育システム構築の中で検討を行うこと
2. 学習面の困難に対する取り組みを強化すること
3. 通常の学校における特別支援教育を促進するため、特別支援学校教諭免許から特別支援教育免許(仮称)への転換を図り、特別支援教育に関わる教員の取得を義務化すること
4. LD、ディスレクシア等の視覚認知等に困難を持つ発達障害者が、個々の特性に合わせ多様な手段・手法・技術によりバリアフリー化された図書や教科書を無償かつ容易に利用できるよう、各種の支援手段・技術の開発、普及に取り組むこと
5. 発達障害に対する、社会的理解の向上に取り組むこと

平成31年度 厚生労働省関係予算要望事項

【厚生関係】

<重点要望事項>

1. 発達障害者支援センターの専門相談員および職員を増員すること
2. 発達障害の診断と対応ができる医療機関の拡充

<その他の要望事項>

1. 身近な地域での発達障害児者およびその家族に対する支援を推進すること
2. 発達障害者支援センター事業を拡充すること(地域支援機能の強化)
3. 乳幼児から成人までの発達障害に対応できる医療機関を拡充すること
4. 発達障害者に対する情報支援体制の整備・拡充(意思疎通支援・合理的配慮の提供等)
5. 発達障害の特性に応じた災害時の支援対策の整備
6. 発達障害に対する理解、啓発を促進すること

<中長期的な要望事項>

1. 発達障害をふくめ、障害者の所得保障制度の拡充
2. 長期的な展望に立った発達障害支援の専門的人材の育成と、専門職の位置づけを明確化すること

【労働関係】

<重点要望事項>

1. 継続して働き続けるための支援を充実すること

<その他の要望事項>

1. 発達障害者に対する相談体制の整備と多様かつ効果的な職業訓練、職場実習制度を充実すること
2. 地域における障害者の職業能力開発および職業訓練を強化すること
3. 発達障害者の雇用を促進すること
4. 公的機関における発達障害者の雇用を促進すること
5. 雇用・就業関係機関職員や事業所に対する発達障害関係の研修を充実すること
6. 障害者就業・生活支援センター事業を拡充すること

<中長期的な課題に関する要望>

1. 労働・雇用分野での障害を理由とする差別の禁止、職場における合理的配慮の提供を確保するため、発達障害の特性を考慮に入れ必要な措置を推進すること
2. 発達障害をふくめた、障害者の賃金水準の向上
3. 手帳の有無ではなく、実際の職業的困難度を基準とした障害判定の仕組みを導入すること

一般社団法人 日本発達障害ネットワーク (JDDnet) より

日本発達障害ネットワークの10月以降の主な取り組みです。詳細はJDDnetのHP (<https://jddnet.jp>) をご覧ください。

(1) エリア会員交流会

エリア会員との意見交換・情報交換を進めるために、新たな事業として行います。

関東ブロック	10月6日 (東京)
近畿ブロック	10月14日 (大阪)
北海道・東北ブロック	10月20日 (仙台)

(2) JDDnet 年次大会

JDDnet 発足を記念して、毎年12月に開催しています。

日時:2018年12月2日(日)

会場:東洋大学白山キャンパス

行政の発達障害への支援は、厚生労働省と文部科学省が中心となって行ってきましたが、ここ数年、障害者権利条約や2020年オリンピック・パラリンピックが追い風となり、他の省庁でも障害者への対応に力を入れています。今回は、厚生労働省や文部科学省以外の省庁の取り組みについても話していただくことになっています。

(3) 内閣府主催 障害者週間「連続セミナー」

平成7年に当時の総理府(今の内閣府)で「障害者基本法」の公布日の12月3日から従来の「障害者の日」の12月9日までの1週間に「障害者週間」と決めました。

平成16年の障害者基本法改正により、法律にも「障害者週間」が明記され、国民の障害者理解を深めまた障害者の社会参加促進を目的としたイベントがこの期間に毎年行われます。「障害者週間のポスター」や「心の輪を広げる体験作文」等でご存じの方も多いかもかもしれません。

一般参加者を対象とした内閣府主催「連続セミナー」にはJDDnetからも講師の派遣を行い、発達障害理解の啓発を行います。

日時:2018年12月7日

会場:東京都内

(4) 人材育成研修会

発達障害者の支援者養成のための人材育成研修会を年2回行っています。前期の研修会(千葉市にて開催)の募集は締め切りでしたが、後期研修会予定は下記です。

日時:2019年1月27日

会場:静岡市

(東條)

全国特別支援教育推進連盟 より

全国特別支援教育推進連盟の今年度の主な取り組みです。

(1) 平成31年度予算要望

今年度も、加盟団体の要望を取りまとめ、6月28日(木)に文部科学省・厚生労働省へ平成31年度予算への要望書を提出しました。文部科学省には、推進連盟の宮崎理事長・岩井副理事長・大伊専務理事の3名と各加盟団体の代表者11名とで特別支援教育課に伺い、中村信一課長以下4名の方々にご対応をいただきました。厚生労働省には、推進連盟の3名が障害者雇用対策課と障害福祉課を訪問してくださいました。要望事項につきましては、推進連盟の下記HPでご確認ください。

<http://suishinrenmei.c.ooco.jp/yosanyoubou.html>

(2) 文部科学省委託事業「平成30年度特別支援教育に関する教職員等の資質向上事業」(民間団体等を活用した特別支援教育の理解啓発)

『共に学ぼう！発達障害セミナー』

～発達障害についての講演とシンポジウム～

日時:2018年8月25日(土) 10:00～16:00

会場:東洋大学白山キャンパス6号館2階6209教室

定員:150名

プログラム:

○講演Ⅰ「発達障害児支援の基本」

笹森洋樹氏(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 所長兼総括研究員・発達障害教育推進センター長)

○講演Ⅱ「小中学校における合理的配慮について」

喜多好一氏(全国連合小学校長会特別支援教育委員長・江東区立豊洲北小学校長)

○シンポジウム「発達障害児童生徒の支援について」

シンポジスト 樋口一宗氏(東北福祉大学教育学部教授)
綿貫愛子氏(臨床発達心理士)
河高素子氏(学生)

コーディネーター 横山貢一氏

(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・発達障害教育推進センター総括研究員)

(3) 第41回全国特別支援教育振興協議会「学校教育におけるインクルーシブシステムの充実に向けて」

日時:2018年12月7日(金)10:00～16:00

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター

国際交流棟国際会議室

(井上)

関東ブロック便り

関東ブロックは関東圏域に13会ありますが、今回は前号未掲載、7会の活動を紹介します。

～ほっとする居場所であり続けるために～ 「新潟いなほの会」-発達障がい児者親の会-

結成から23年目になる「新潟いなほの会」は、現在会員数が約180名、賛助会員数が約60名で活動しています。

会全体の活動としては、学校の先生も参加しての「事例検討会」、福祉や教育関係者を招いての「講演会」、年に6回の「会報発行」などを行っています。これらの活動を通して、発達障がいをもつ人たちが、地域の中で充実した生活ができるように、様々な関係機関と協働していくことを目指しています。

また、地域や年齢、性別に応じて12の活動グループがあり、それぞれが、茶話会や勉強会、旅行や体操教室等を主催し、親も子どもと一緒に交流しています。社会の中では少数派になりがちな当事者たちも、グループの中では気持ちの共有ができ、それぞれのグループが、ほっと安心できる場になっています。また、親も同じような悩みを語り合うことができ、グループ活動で疲れた心をリセットすることができています。

長年役員をしてくださった方々が退任し、各グループから役員を選出するという新しい役員体制になって3年目。今後も長く会を存続できるように、一人一人が会のためにできることを模索していけたらと願っています。

千葉発達障害児・者親の会 「コスモ」

1989年に「けやき」(東京)の千葉県支部として活動を開始し、1990年に千葉LD児親の会「コスモ」となり、その後千葉発達障害児・者親の会「コスモ」と改名しました。8月1日時点での会員数は130名(賛助7・通信4を含む)です。地域グループと年代別グループの二本立てで活動していますが、5つの地域グループは千葉県の北西部に集中していて、県全体を網羅して活動していないという問題があります。そもそも人口が千葉県北西部に集中しているの、なかなか難しいのが現状です。

年代別グループでは、小学生グループ・中学生グループに比べて、15歳以上のYPC(Young Persons Club)が肥大化しているのが悩みです。

(2018年9月25日)

そんな中、今年度、YPCの中に「親亡き後」にテーマを絞った自主活動グループ「カトレアクラブ」が立ち上がり、13名で活動を開始しました。今後の活動報告が楽しみです。

コスモ会員のお子さんの年齢層は、18歳未満と18歳以上がほぼ半々ですので講演会・勉強会・見学会などは就労・教育のどちらかに偏らないように開催しています。また千葉県発達障害者支援センターのペアレントメンター研修を受け、今年新たに8名が登録しましたので、引き続き入会相談会などを行う予定です。

全国LD親の会東京東部支部 「学び方の違う子の親の会ルピナス」

学びの違う子の親の会ルピナスは、2015年(平成27年)に設立された比較的新しい親の会です。主に東京の東部地区の保護者で活動を始めましたが、現在は東京近郊の広い地域から会員が集まるようになりました。

会員は、小学生、中学生の保護者が多いですが、高校に進学したお子さんを持つ会員も増えてきました。社会人になっているお子さんはまだいません。茶話会をふた月に1度のペースで行い、同じような悩みを抱えている保護者同士の交流をしています。また、東京のあらゆる勉強会の情報交換をしています。時にはみんなで勉強会に参加して、勉強会のあとに茶話会を行ったりもしています。

また、年に数回会員自身が企画の講演会や勉強会を行っています。会員企画の「受験についての合理的配慮の報告会」は毎年大変充実した内容となっています。

LINEグループによるコミュニケーションも盛んで、困っていることをルピナスのLINEグループにあげると、会員皆さんが知恵を絞って回答するという交流も盛んに行われており、会員の支えになっているとの声もあります。

学校とのやりとりなどで苦勞している会員もいて、今後は会としても支援ができるような取り組みをしていけたらと考えています。

神奈川LD等発達障害児・者親の会 「にじの会」

1990年に設立した「にじの会」は、今年で28年目を迎えました。現在、会員数は215名(正会員212名、賛助会員3名)、会員の子供の構成は、小学生15%、中学生18%、中卒後3年未満15%、中卒後3年以上51%となっています。幼少期に入会・継続している家庭が多いですが、青年になってから子供の特性に気づき入会される家

庭もあり、年齢層は未就学から30歳以上の成人まで幅が広がっています。

主な活動として、毎年、大学生のボランティアさんとともに、親参加のサマーキャンプ・クリスマス会、年数回の保護者対象の勉強会、一般向け講演会を開催しています。また、子供向けに4つの余暇活動グループ、親向けに県下を6つの地区に分け懇親会も行っています。

ここ数年、主体となって活動する会員や個々の活動への参加人数の減少が課題となっています。そのため、今年度から、昨年まで教育部会と就労部会で行っていた活動を変更し、子供の所属に合わせて親のグループを作り、それぞれのグループで話し合っ、親子活動や学習会などを行い、活動の活性化を図っています。同世代のつながりを重視し、自分たちの困っていることを共有・共感アイデアを出し合い、活動につなげていく仕組みを作り、お互いに顔の見える関係づくりを目指して取り組んでいます。

長野県 LD 等発達障害児・者親の会 「よつ葉の会」

よつ葉の会が設立され9年目を迎えています。子育てに困った親たちが情報を共有するために集まったのが始まりでした。現在の会員数は100名程度で推移しております。県内4支部に分かれ、各世代のお子さんをお持ちの親たちが集って、各地域の専門家の先生の講演会企画や、お子さんの悩みを一緒に考える場を茶話会として計画しております。

活動をしていく中で、県内の専門家・支援者を知ることになりました。県内でのネットワーク「JDDnet ながの」とのご縁ができたこともお伝えしたいです。

LDの部分では、県内の長野大学・信州大学教育学部での研究情報や、民間のアプリ開発の情報をいただいています。医療も県内のドクターのネットワークを構築すべく、信州大学こどものこころ診療部の本田秀夫先生を中心に研修が進んでいくことも知りました。

当初から関わっている会員さんの経験を若い親御さんたちにお伝えしながら、今後は長野県の発達障害支援について当事者の代弁者として行政とも関わっていけるように活動しております。

近年は、社会での認知度が上がり、「発達障害」に対する理解も進んできた面もありますが、また、障害名だけが独り歩きしているようにも思えます。

10年前とは違う今の社会に子どもたちがどう折り合いをつけるか会の仲間と考えていきたいです。

「ゆずりは」 (LD等発達障がい児者親の会)

「ゆずりは」は、設立から29年、会員数約65名、栃木県で活動している、親の会です。残念ながら設立当初の先輩方は、退会してしまっています。そして、気が付けば、会の子供達は、成人をすぎた子が3分の1を超える会になりました。小学生の保護者の入会も年々減ってきています。ピークには、毎月行っていた親子レクリエーションも参加者が居なくなってしまう、今年度は、行わないことになりました。会を続けるのは、大変だなと感じるこの頃です。

現役員があまり無理する事無く続けて行ける行事のみになってしまいましたが、各地開催のお食事会を中心に学習会、座談会、相談会などを細々と続けていく事になりました。

そんな中、長く関わってきて見ることが出来るのが、会員さんの親と子の成長です。これは、「ゆずりは」という会のおかげだと自負しております。保護者だけの参加でも、学習会や話しの中で理解を広げ、お子さんに無理を強いる事がないように生活を支えることで親の成長と子供の成長を見ることが出来るのだと思います。そんな活動が細々になった親の会です。

LD(学習障害)とそれに類似する児・者の親の会 「にんじん村」

東京都世田谷区教育相談室の中川克子先生のマザーグループを母体に1987年に設立し、世田谷区を中心に活動しています。私たちは元々地域も狭く、こじんまりした会ですので、活動もその時々ニーズに合わせて行っています。

「知っ得勉強会」は学期に1回の開催でもう17回に、「わいわいクッキング」は同じく学期に1回の開催で27回になりました。青年の活動「なごみ」はプロのアドバイザーの先生をお招きして、話し合い+終了後の食事の「通常なごみ」と身軽に色々な所に出かける「外出なごみ」を毎月交互に実施しています。仲間意識も育ち、青年たちの大切な居場所になっています。

頭が痛いのは、役員を交代する要員がないので、ここ5~6年ずっと同じメンバーで固定されてしまっている事です。また会員子弟の年齢層が上がり、今年度から一番年下は中3に、年上は40才台を突破しました(子弟の高齢化に伴い、35才以上の親の集まり「カリフラワー」も活動を開始しました)。そのため「知っ得勉強会」のテーマも、親亡き後、年金について、信託制度とは・・・などに偏りがちです。

●NPO法人全国LD親の会 活動報告 ※(第25回 評議員会以降)

- 2月09日 全国特別支援教育推進連盟第4回理事会(石原)
- 2月27日 文部科学省発達障害に関するネットワーク推進会議(井上)
- 3月05日 障害者権利条約パラレルレポート「JD 草案」学習&検討会(井上)
- 3月12日 教科書デジタルデータを利用した拡大教科書、音声教材等普及促進プロジェクト(井上)
- 4月10日 「かけはし」86号発行
- 4月24日 2017年度事業・会計監査
- 4月30日 第34回理事会(みなし決議)
- 5月09日 全国特別支援教育推進連盟第1回常任理事会(井上)
- 5月15日 文部科学省・厚生労働省に平成31年度予算要望提出
- 5月18日 全国特別支援教育推進連盟第1回理事会(石原)
- 5月25日 JD第6回総会・政策会議(水越)
- 6月23日 第11回NPO法人全国LD親の会総会・研修会・懇親会・全国青年交流会
- 6月24日 第17回NPO法人全国LD親の会公開フォーラム
- 6月28日 全国特別支援教育推進連盟文部科学省・厚生労働省へ要望書提出・懇談(井上)
- 6月28日 全国特別支援教育推進連盟第2回常任理事会(井上)
- 6月30日 JDDnet第8回代議員総会・懇親会(東條・水越)
- 7月04日 全国特別支援教育推進連盟第2回理事会(石原)
- 7月26-27日 第36回理事会(みなし決議)
- 8月03日 厚生労働省平成30年度障害者総合福祉推進事業(2次公募)に応募
- 8月04-05日 ボランティア支援員養成講座 in 滋賀(井上)

●第34回理事会報告

出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志・水越由起恵

理事会の決議があったとみなされた日時:2018年4月30日 20:00—20:42

開催場所:電磁的記録によるもの

[決議] (1)平成30年度活動方針及び予算案について、全員一致で同意した

(2)第11回通常総会に付議する議案について、全員一致で同意した

第1号議案 平成29年度事業報告(案)

第2号議案 平成29年度決算報告(案)

第3号議案 平成30年度役員(案)

第4号議案 定款の一部改訂(案)



●第35回理事会報告

出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志・水越由起恵

開催日時:2018年6月23日20:30 - 20:50 開催場所:愛知県産業労働センター ウィンクあいち 9F小会議室C904

[決議] 第26回評議員会における審議結果を審議し、全員一致でこれを承認した

●第36回理事会報告

出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志・水越由起恵

理事会の決議があったとみなされた日時:平成30年7月26日 22:00 - 平成30年7月27日 7:40

開催場所:電磁的記録によるもの

[決議] (1)厚生労働省「平成30年度障害者総合福祉推進事業」2次公募

指定課題40「読み書きに困難さのある発達障害者の生きづらさと支援に関する調査」に応募し、事業を進める件について、全員一致で同意した

(2)NPO法人全国LD親の会事業会計における算定基準の改訂案について、全員一致で同意した